

令和5年度学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組 織

- (1) 名 称 東京都立墨田川高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 協議委員の構成 有識者(1)、近隣中学校長(1)、地域有識者(1)、保護者代表(2)、同窓会代表(2) 合計7名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、総務部主任 合計7名
- (4) 事務局の構成 事務局長(総務部主任)、他総務部担当者 合計2名

2 実施の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の実施概要
 - 第1回 令和5年5月27日(土) 出席: 協議委員6名、内部委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
令和4年度学校経営報告、令和4年度学校運営連絡協議会報告、令和5年度学校経営計画、本校の現状と課題等の概要説明、意見交換
 - 第2回 令和5年10月7日(土) 出席: 協議委員6名、内部委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告、教育活動に関する意見聴取、学校評価アンケートの内容検討・意見聴取、意見交換
 - 第3回 令和6年2月3日(土) 出席: 協議委員3名、内部委員7名
学校評価アンケート結果報告・協議、次年度学校運営に関する提言・方向性の確認
- (2) 評価委員会(第1・2回)の実施概要
 - 第1回 令和5年10月7日(土) 出席: 協議委員2名、内部委員2名
令和5年度学校評価アンケートの観点・項目等内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和6年2月3日(土) 出席: 協議委員2名、内部委員2名
令和5年度学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 (昨年度)
 - 12月 全校生徒 対象: 887名 回収: 774名 回収率: 87.3%(81%)
 - 12月 保護者全員 対象: 887名 回収: 307名 回収率: 34.6%(31%)
 - 12月 地域住民 対象: 37名 回収: 37名 回収率: 100%(29%)
 - 12月 教職員 対象: 59名 回収: 56名 回収率: 94.9%(93%)
- (3) 主な評価項目
学習指導、探究活動、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、教育相談、国際教育、施設・設備、学校広報、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要(学校全般への意見・提言内容)
 - ① 授業に関する項目
授業満足度や進学に向けた授業内容は、生徒、保護者、教職員(以下:三者)ともに、肯定的回答が7割を超え、少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長が生かされているといえる。家庭学習を前提とした「学びのサイクル」の定着に関しては、三者ともに肯定的回答が3～4割にとどまっており、課題である。

② 進路指導、探究活動に関する項目

進路情報の適切な提供や面談を中心とした進路指導の満足度は、三者とも8割に迫る肯定的回答を得た。一方、探究活動の満足度は、生徒の肯定的回答は1年次では8割、3年次では7割を超えたのに対し、2年次は5割にとどまった。

③ 生活指導、学校行事・部活動に関する項目

生活指導については、服装や登下校時のマナーなど基本的な指導の徹底については、三者とも8割を超える肯定的回答であったが、生活指導についての理解や納得が得られているかについては、保護者や教職員は6～7割が肯定的であったが、生徒は5割程度であり、十分に理解や納得が得られているとは言い難い結果であった。学校行事と部活動の満足度は、三者とも8～9割が肯定的回答であった。

④ 教育相談、国際教育などに関する項目

教育相談に関しては、生徒と保護者の肯定的回答は6～7割であるのに対し、教員は9割を超えた。国際交流の推進に関する生徒の肯定的回答は、4～5割で昨年度の1～2割と比較して大幅に増加した。

⑤ 施設に関する項目

施設・設備などの教育環境の整備の肯定的回答は、生徒と保護者が4割、教職員が3割にとどまった。エアコンは、今年度調整を行ったにもかかわらず冷暖房が効かないことがあった。個別空調の設置について都の施設担当部署に強く申し入れをしている。

⑥ 学校広報、教職員のワーク・ライフ・バランスに関する項目

学校ホームページの充実についての肯定的回答は、三者とも7～8割で昨年度の4～6割と比較して大幅に増加した。なお、地域は4割程度にとどまっている。生徒募集対策上からも部活動を中心とした情報を積極的に発信していくことが求められている。また、ライフ・ワーク・バランスの取組への理解については、保護者が5割、地域が3割と浸透しつつあるが、教員の肯定的回答は4割程度にとどまっている。より一層の取組の推進と情報の提供が必要である。

⑤自由意見について

施設、校則、授業に関して改善要望が多かった。次年度から2年間かけてトイレ改修工事が決定している。また、個別空調設備の設置についても引き続き都に強く要望していく。墨水会（同窓会）による百周年記念事業として図書館、自習室の整備が完了し、始業前と授業後午後6時10分までの自習室も定着してきている。今後も引き続き、生徒の学力向上に向け、学習環境を整えていく。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画への反映)

(1) 学習指導について

- 少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長をより一層生かしていくとともに、授業の予習と復習に自発的学習を加えた「学びのサイクル」の定着など家庭学習時間の充実が必要である。また、生徒や保護者からの「課題が多い」との自由意見を踏まえ、教科等で「自発的な学習」を促す工夫を検討していく。
- 大学入学共通テスト得点率7割以上の生徒の増加のため、校内予備校等の活用により、成績上位層への効果的な指導を充実させていくとともに、習熟度別授業の利点を生かし、成績上位層と下位層それぞれに対する指導の充実を図る。
- 授業の相互参観や授業中のグループ・ワークや話し合いによる「主体的・対話的で深い学び」はその機会が増えている。今後、大学入学共通テストの得点力向上のために、教科等を中心に工夫改善を進めていく。

- ICT及び一人1台端末、学習支援アプリ等の適切な活用については、授業やホーム・ルーム、勉強合宿などの学校行事での活用が進んでいる。今後、学習支援アプリ活用の定着を図るとともに、「総合的な探究の時間」や進路指導、学習支援アプリの配信等、教科や分掌での組織的な活用を推進していく。
- 早朝及び放課後自習室の開設により、学校での学習時間確保と環境整備を進めていくとともに、学力の伸長などその効果を確認して広く発信し、自習室利用者の増加を図る。

(2) 進路指導及び「総合的な探究の時間」について

- 情報提供も含め進路指導への満足度は8割程度であったが、大学進学実績は、昨年度を下回った。成績上位層は一定程度存在するが、自信を持って出願させる指導にやや課題があった。次年度は、国公立大学を志望する生徒に対して情報提供を一層充実させるとともに、年間3回の面談週間を効果的に活用し、最後まで諦めさせない指導を組織的に継続して行う。合わせて中期・後期日程の受験を促すとともに、GMARCH受験層の指導の強化と充実を図っていく。
- 第一志望校を2年次のうちに決定させるとともに、2年次の秋以降の進路指導を充実させ、志望大学・学部・学科等を明確に意識した受験準備に当たれるよう指導する。
- 「総合的な探究の時間」の満足度は約7割であった。「探究推進部」の新設により、指導内容の充実を図ることができた。次年度も指導計画や到達目標の修正を行い、より無理のない充実した探究活動としていく。生徒の知的探究意欲向上のため、次年度も千葉大学との連携による大学訪問や模擬講義、1年次の「職業人インタビュー」など、一層の充実・発展を目指す。また、進路行事や選択科目説明会等の進路行事との効果的な連携を図り、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫するとともに、その成果を活用した「総合型選抜」受験生徒の指導の充実を図る。
- 英語4技能伸長を基礎として、英検等資格取得に向けた指導を充実させるとともに、次年度は海外姉妹校交流やシンガポール海外語学研修を実施するなど国際教育プログラムの充実を図る。

(3) 生活指導及び学校行事・部活動について

- 学校行事の満足度は生徒・保護者ともに9割を超えた。次年度も体育祭、七高祭、合唱祭、2年次生修学旅行などの学校行事を生徒が主体的・自主的に取り組めるよう指導していく。
- 学校生活満足度は、生徒8割、保護者は9割を超えた。自主的・主体的活動に関する肯定的評価も生徒保護者とも8～9割と高い数値であった。今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えているという実感と充実感を得ることにより、生徒の学校生活や行事満足度をより高めていけるよう生徒指導部と年次担任団が連携して指導を工夫していく。
- 生活指導についての理解や納得については、生徒が5割程度にとどまったことから、教員が生徒をよく理解し、信じて任せる指導を進めるとともに、生徒指導部が中心となって、教員全体が共通理解を図りながら指導できるように工夫していく。また、自由意見でも校則が厳しいとの意見が複数あったことから、次年度は、生徒会を中心に対話を深めながら、必要な校則についての共通理解を深めながら、校則についての不断の見直しを図っていく。また、地域からの意見をもとに登下校の指導を行っていくとともに、自転車を中心とした交通安全指導を徹底していく。
- 部活動の満足度は、生徒・保護者とも約8割であった。今後も活発な部活動を維持・継続するとともに、「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく部活動と学習の両立に向けた指導を行っていく。

(4) 健康・安全教育と相談体制の充実について

- 「相談体制の充実」については肯定的回答が大幅に増加したが、心の不調による保健室利用者が一定程度存在することが課題である。今後も学習と部活動等との両立を図る指導を継続していく。

(5) 生徒募集及び学校広報について

- 学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生及び塾指導者対象説明会を含めた来校保護者等はいずれも目標値を達成したが、推薦に基づく選抜以外は、僅かに目標値を下回った。今後、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校の特色、探究学習や国際教育プログラムの充実、学校行事や部活動の状況等をより効果的に発信し、第一志望生徒の増加を図る。
- 学校ホームページは、昨年度のリニューアル完了を受け、今年度は更新回数とアクセス数、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答が生徒・保護者とも大幅に増加した。引き続き部活動や学校行事等、本校の特長を効果的に発信するとともに、入学者選抜における自校作成問題に関する情報の充実を図っていく。

(6) 学校施設及び学校組織運営について

- 学校施設等の教育環境の整備については、満足度が低かった。次年度はトイレ改修工事が行われることから、工事期間中の不便が想定される。また、夏場に十分空調機器が稼働しなかったことから、引き続き都に個別空調機器の設置を強く要請していく。
- 夏休の完全消化、学校閉庁日の実施等、教職員のライフ・ワーク・バランス実現に向けた意識は高まりつつあるが、一部の教員の在校時間の長さは課題である。ただ、教員の働き方改革の取組を知っている保護者は昨年度の3割から約5割に増加するなどホームページ等での周知が効果的であったと考えられる。次年度も、欠席連絡のメールへの変更や留守番電話機能設定などの周知を通して、理解と協力を図っていく。
- 学校運営連絡協議会の意見や学校評価アンケートの結果を適切に公開・検討していくとともに、教員研修等で活用していく。
- 自由意見に散見された本校教職員の接遇等の要望について真摯に受け止めるとともに、個人情報保護や情報セキュリティに対する教職員の意識を向上させるとともに、体罰や服務事故を根絶するための服務事故防止研修や管理職による指導を徹底していく。

5 「学校が良くなった」と考える協議委員の人数（協議委員7名）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
5	2					

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員の職員会議への参加はなかったが、墨水会（同窓会）、美汀会（PTA）などの役員が協議委員を兼ねており、年間の交流が増加し率直な意見をいただくことができた。

7 その他

- 保護者対象アンケートの回収率を更に高めるため、次年度は保護者会や美汀会運営委員会等を活用する。

以 上